

未来を創る 情報の生産者 をめざして

安定した
ドコモのネットワークで築く、
当たり前に見えるICT環境



学校法人八千代松陰学園
八千代松陰中学校
八千代松陰高等学校

住所：千葉県八千代市村上727
URL：http://www.yachiyoshoin.ac.jp/

八千代松陰学園では2017年度より、新中学1年生と新高校1年生を対象にGoogle Chrome OSを搭載したノートパソコン「Chromebook」を導入し、一人1台体制を実施した。大学入試改革への対応や、思考力・判断力・表現力といった新しい学力の育成が求められるなか、同校ではICTを積極的に活用することで多様な学習環境の実現をめざす。



目的

- 情報を創り出す「情報生産者」の育成とCBT導入に向けた早期準備
- 教える側のICT活用のスキルアップとそのため時間の確保
- ネットへの常時接続がストレスなく利用できる

アプローチ

- 起動も早く、キーボード付のChromebookを採用することで学習環境を整えた
- 必要最低限の機能に限定し、かんたんに利用できる環境を整え、事前準備の手間や負担を軽減することができた
- 先行導入（50台）過程でのネットワークトラブルチェックにより、快適な環境かつ確実なネットワークを構築できた

Chromebook 導入理由は、親和性の高さ、キーボードの重要性、低価格



八千代松陰学園（千葉県八千代市）は、中学・高校合わせて2800名もの生徒が在籍する大規模校だ。文武両道を重んじ、習熟度別授業や国際交流、生徒の知的好奇心を高める「松陰セミナー」など、生徒一人ひとりの“持ち味を活かす教育”をモットーに特色ある活動を実践している。

コンピューターを使い、何かを創り出す“生産者”へ

そんな同校では、2017年度より新中学1年生と新高校1年生を対象にChromebookによる一人1台体制を導入した。クラウドを当たり前を使いこなせる環境をドコモのネットワークで構築し、情報

化社会を生き抜くために必要な主体性や情報活用能力の育成をめざす。同校の副校長・井上勝氏は「今の子どもたちは、スマートフォンを受け身に使う“消費者”であることが多いですが、これからはコンピューターを使って、何かを創り出す“生産者”になることが大切だと考えています」と一人1台にかかる想いを語る。

一般的に私立中高一貫校の場合、一人1台の端末としてChromebookを選ぶことは、まだ少ない。これについて井上氏は「Chromebookは教育活動との親和性が高いと思います。今の生徒にとってはキーボードのスキルも必要であることや、他の端末



井上勝副校長

に比べて低価格であったことも考慮しました」とChromebookの選択理由を語る。八千代松陰学園では現在、学校共有の端末も合わせて計916台のChromebookが稼働しているという。

授業、ホームルーム、クラブ活動、どの場面からでもはじめやすいのが魅力

大学入試に導入予定のCBTにも対応



Chromebookの本格導入から半年が過ぎた八千代松陰学園。Googleが提供する教育機関向けプラットフォーム「G-Suite for Education（以下、G-Suite）」をベースに、教師と生徒間で連絡事項を伝達したり、部活動の練習メニューや試合のビデオを共有するなど学校生活全般でICTの活用範囲が広がっている。井上氏は「G-Suiteはパソコンが苦手な教師も使いやすく、授業、ホームルーム、クラブ活動など、どの場面からでもはじめやすいのがメリットですね」と語る。

授業では、板書や資料などをスライドを映写する機会が多いが、G-SuiteのClassroom機能を用いて小テストを実施する教師も出てきた。「2020年度の大学入試改革ではCBT（Computer Based Testing）が導入されるため、Chromebookを授業で活用しながらコンピューターの操作やキーボードスキルも高めてほしい」と井上氏は話す。

Chromebookの本格導入から半年が過ぎた八千代松陰学園。Googleが提供する教育機関向けプラットフォーム「G-Suite for Education（以下、G-Suite）」をベースに、教師と生徒間で連絡事項を伝達したり、部活動の練習メニューや試合のビデオを共有するなど学校生活全般でICTの活用範囲が広がっている。井上氏は「G-Suiteはパソコンが苦手な教師も使いやすく、授業、ホームルーム、クラブ活動など、どの場面からでもはじめやすいのがメリットですね」と語る。

ICTの授業への活用で、生徒が前を向くようになった

英語科の田中楓子教諭は、同じくG-Suiteの機能であるGoogleスライドを用いて、英語によるプレゼンを実施している。生徒は写真やイラストを添えたスライドを用いて英語で説明し、聞き手はGoogleフォームに感想や評価を書き込んでいく。ICTを活用することで、生徒同士の相互評価をリアルタイムでフィードバックできるようになった。



田中楓子教諭

田中教諭はChromebookを活用した授業について「生徒が前を向くようになった」と述べた。今まで生徒たちは、板書を写す作業にとらわれて教科書やノートに視線が奪われていたが、今では前を見て、しっかり“聞く”ことができるようになったという。ほかに



田中教諭は、「授業準備が楽になった」「学習進度もあがった」などメリットを語っており、今後は4技能対策に音声機能を積極的に取り入れていきたいと抱負を述べる。

プログラミングやアダプティブ・ラーニング、新しい学習に挑戦



もちろん八千代松陰学園ではG-Suiteの活用だけでなく、Chromebookを使った新しい学習にも取り組んでいる。高校の情報の授業では、一人1台環境を活かして

プログラミングの学習を普通教室で実施。わざわざパソコン教室に移動することなく、文房具と同じ感覚でChromebookを使いながら、プログラミングの課題を進めることができる。また生徒の習熟度に応じた学習が可能なアダプティブ・ラーニングのサービスも導入した。英語の授業ではレベル別の個別学習に活用するほか、始業前の隙間時間や部活動の遠征先など限られた時間の中で効率よく学習をしたり、苦手な単元の動画を何度

もちろん八千代松陰学園ではG-Suiteの活用だけでなく、Chromebookを使った新しい学習にも取り組んでいる。高校の情報の授業では、一人1台環境を活かして

も見ながら理解を深めたりするなど、生徒一人ひとりの学習スタイルやレベルに合わせた環境を提供している。井上氏は「基礎知識の理解や定着はアダプティブ・ラーニングを上手く活用しつつ、授業ではアクティブ・ラーニングなど、その時間にしかできない活動に取り組んでいきたいです」と語る。

一方でChromebookは、インターネットへの常時接続が必要で、校内ネットワークは、通信速度やセキュリティなど、ストレスなく安全に使える環境が求められる。そのため八千代松陰学園では、「ドコモ光ビジネスWi-Fi」を導入し、盤石なインフラを築いた。「技術面、安全面でドコモは信頼できましたし、また学校現場の事情をわかるスタッフがいて導入から管理までをお任せできたことも良かったです」と井上氏は語る。今後はさらに生徒一人ひとりの可能性を引き出しながら、“当たり前のツール”として活用を広げていく方針だ。



お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター（☎0120-808-539）
受付時間 平日午前9時～午後6時（土・日・祝日・年末年始を除く）

ドコモのホームページ 法人のお客さま
教育の場にICTを！

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/

